アスベスト研究における公衆衛生分野の位置づけ

青木　仕

順天堂大学図書館

[はじめに]

平成 17 年 6 月 29 日、大手機械メーカーのクボタは、兵庫県尼崎市神埼工場のアスベスト(石綿)が原因とみられる肺癌の一種である中皮腫が元従業員および周辺住民に多数発症していると認め、見舞金を支払うことを決めた。中皮腫の原因は、80%以上がアスベストの吸引によるものであり、その強い因果関係が証明されている。この報道を契機にアスベスト災害は社会問題としてクローズアップされるようになった。我が国のアスベストの使用量は、高度成長期 1970～1980 年代がピークであり、人体に非常に有害なことから 1995 年には輸入が禁止されている。中皮腫の発症はアスベストの暴露より平均 35 年後がピークとされ、今後 10～20 年後に多くの中皮腫患者の発症が予測される。現在中皮腫での死亡者数は年間 900 人であり、今後 2000～2029 年までの 30 年間で 58,000 人にのぼり、2030 年に死亡者数はピークに達すると予想されている。現在中皮腫の治療法は確立されていない。アメリカの映画俳優スティーブ・マックィーンは、中皮腫が原因で 1980 年に 50 歳の若さで亡くなっている。2006 年、順天堂大学医学部附属順天堂医院では日本で唯一のアスベスト・中皮腫外来をオープンし、新規に診断キットを開発し、中皮腫の早期発見と診断に貢献し国内外から注目されている。

今回は、アスベスト関連文献について医学情報学の立場から計量書誌学を用い分析する。特にアスベスト文献に占める公衆衛生学分野の研究はどのようになされ、どのような位置づけにあるのかを検証する。

[方法]

海外・国内のアスベスト関連文献数の推移を PubMed・医中誌 Web を用いて求める。

コアな公衆衛生関連雑誌を対象に 2-Step・Map を作図し、コア雑誌に掲載のアスベスト関連文献についてその調査研究法について分析する。

[調査結果]

海外文献では､アスベスト暴露と中皮腫との関連文献は 1960 年に最初に発表されており、PubMed 上でアスベストを中心主題にした文献を MeSH Major Topic を用いて検索すると 5154 件(2007.6 現在)が抽出され、最初の報告は 1967 年であった。文献数の推移は、1978 年から 1979 年にかけて倍増し、その後年間 150 件前後で推移していた。国内文献は、会議録を除くと 1109 件が抽出され、2006 年は 237 件と前年の 3 倍増を示し、今日のアスベスト災害を反映する結果であった。2-Step・Map からは、JAMA, Lancet, BMJ などの総合医学雑誌がコア雑誌として抽出され、医学一般と公衆衛生学との結びつきは強く、医学分野における公衆衛生学の位置づけがある程度確認された。

[参考文献]

1. 丸井英二. アスベスト問題の社会的背景. 順天堂医学 2006;52(3):312-8.
2. 稲葉　裕, 野尻宗子. アスベストに関連した中皮腫の疫学. 順天堂医学 2006;52(3):319-33.